

2025年度第2回あかしSDGs推進審議会 議事録

日時：2025年(令和7年)8月26日(火) 15:00～17:15

場所：明石市役所議会棟 大会議室

発言者	内容
1 開会	
事務局	定刻になりましたので、ただいまより、2025年度第2回あかしSDGs推進審議会を開催いたします。 私は本審議会の事務局をしております、企画・調整課長の東谷と申します。 本日はどうぞよろしくお願いいたします。 それでは、審議会の開催にあたり、永野副市長からご挨拶申し上げます。
2 永野副市長あいさつ	
永野副市長	皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました明石市副市長の永野でございます。 本日は本当に残暑厳しい折、また、本当にお忙しい中、あかしSDGs推進審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。 皆様におかれましては日頃より本市の市政の推進にご理解、ご協力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。 さて、本来でしたら、この場に丸谷市長がまいりましてご挨拶を申し上げるべきところでございますが、本日は東京で、中核市市長会がございまして、市長会の中でも、メンバーを代表しまして、総務大臣と直接お会いして、市の重要な課題について意見交換をするという会議が急に入りまして、本日はそちらに出席させていただいておりますので、代わりまして私からご挨拶申し上げます次第でございます。 さて、本年度、2回目となる審議会ですが、前回、皆様には後期戦略計画の骨子についてご審議をいただき、ご意見を頂戴いたしました。 そのあと6月と7月にタウンミーティング、ワークショップを実施し、市民の皆様からも「明石の未来について、どうすればもっとまちがよくなるのか」というテーマで多くの意見を頂戴しております。 市ではこれらの意見を踏まえまして、後期戦略計画の素案を作成しておりますので、本日はこの素案について、皆様にご審議をいただきたいと存じます。 皆様にはどうか活発な意見交換の中で、忌憚のないご意見を賜りまして、ご審議の方をよろしくお願いいたします。また、この計画がより良い計画となることを期待申し上げます。誠に簡単粗辞でございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。 本日もどうぞよろしくお願いいたします。
事務局	本日の出席状況をご報告させていただきます。委員17名のうち15名の方にご出席いただいております。 本日の出席委員及び市の出席者の紹介は、お手元の座席表にて代えさせていただきます。

発言者	内容
	ます。なお、秋山委員、尾上委員はオンラインでのご参加となっておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。 加えて1点ご報告があります。委員の交代のご紹介でございます。エコウイングあかしから、川島委員に代わりまして、新たに佐々木委員にご就任いただいておりますのでご報告させていただきます。 それでは議事に移させていただきます。 議事進行は坂下会長にお願いいたします。 会長、よろしくお願いいたします。
3 議事 (1) 議題 1 後期戦略計画素案のまちづくり戦略について	
坂下会長	それでは、本日の議題の一つ目は、後期戦略計画素案のまちづくり戦略についてです。 まず、事務局より資料の説明をお願いいたします。
事務局	企画・調整課の佐々木と申します。 それでは、資料の説明をさせていただきます。 まずは、資料1ですが、こちらは前回の審議会での皆さまのご意見をまとめたものになりますので、説明は割愛させていただきます。 次に資料2のご用意をお願いいたします。 こちらは、6月26日に「今の明石、これからの明石」をテーマに実施したタウンミーティングの実施報告でございます。 参加対象は、まちづくり市民意識調査を送付させていただいた、市民から無作為抽出された5,000人の方で、全員に案内を送付し、当日は18名の方にご参加いただきました。 タウンミーティングでは、初めに市長から、第1回審議会でもお示しした「明石のまちの状況とまちづくりについて」情報提供を行い、担当課より「まちづくり市民意識調査の結果について」説明を行ったのち、各グループで対話を行いました。 裏面の写真をご覧ください。各グループでの対話は、えんたくんと呼ばれる丸い段ボールと紙を膝にのせてテーブル代わりとして利用し、紙に意見を書き込んでいきます。 表面にお戻りください。 2の「タウンミーティングの声」です。 グループで、もっと市民の笑顔があふれるまちにするにはどうすればいいかについて、対話を行いました。そこで出てきた意見を記載しております。右の欄は、出てきた意見をふまえて作成をした後期戦略計画の項目を記載しております。 次に資料3をご覧ください。 こちらは、7月12日に「みんなで考えようこれからの明石のまちづくり」をテーマに実施したワークショップの実施報告でございます。

発言者	内容
	こちらの参加対象は、明石に在住・在勤の方とさせていただき、広く参加者を募り、当日 26 名の方にご参加いただきました。 ワークショップでは、タウンミーティングと同様に、初めに市長から情報提供を行い、担当課より総合計画制度等の説明を行ったのち、各々が希望する計画の柱ごとに分かれて、もっと市民の笑顔があふれるまちにするにはどうすればいいかについて、対話を行っていただきました。 右の欄は、出てきた意見をふまえて作成をした後期戦略計画の項目を記載しております。 次は、資料 4 をご覧ください。 これまでに市に寄せられた意見です。現在、オンラインで意見を寄せることができるフォームを常設しており、現在までに合計 9 件のご意見をいただいています。 オンラインフォームでは、 1 どんなまちに住みたいと思いますか 2 明石のまちでここ数年で良くなったところ、今後さらに力を入れていく必要があるところについて教えてください 3 自由意見欄 の構成で意見をお聞きしています。 2 の良くなったところ、今後さらに力をいれて行く必要があるところについては、計画の柱別にご意見をお聞きしています。 お寄せいただいた意見については、記載のとおりです。 次は、資料 5 あかし SDG s 後期戦略計画 素案です。 1 ページから 13 ページは、前回お示ししました通り、後期戦略計画の位置づけや前期戦略計画の検証、計画策定時の背景、本市を取り巻く状況のほか、将来人口推計などを掲載しています。 では、14 ページをご覧ください。 (3) まちづくり戦略についてご説明します。 このまちづくり戦略は、前期戦略には項目がなく、今回新たに記載した項目となります。 骨子案でお示したとおり、後期戦略計画においても、推進計画が掲げる 2030 年のあるべき姿の実現に向けて、5 つの施策展開の柱を基にまちづくりを推進していくことに変わりはありませんが、後期計画の 5 年間におけるまちづくりの重点事項を明確にお示しすることで、市職員はもとより、市議会や市民など、多様なステークホルダーとともに、住みやすいと思う人の割合 100%を目指してまちづくりを展開したいと考えています。 標題のとおり、すべての人が安心して暮らし続け、市民一人ひとりが心豊かに幸せ（ウェルビーイング）を実感できる「“もっと” やさしいまち明石の創造」を掲げ、以下の 3 点を重点的に推進します。

発言者	内容
	1点目は、「こどもを核としたまちづくり」、「誰にもやさしいまちづくり」の深化です。 これまでの取組の継続に加え、市民ひとり一人に寄り添うやさしい取組の進化を図ります。 2点目は、対話と共創のまちづくりの推進です。 明石市では、1975年に「コミュニティ元年」を宣言し、2015年には、「協働のまちづくり推進条例」を制定し、市民主体のまちづくりを進めてきた歴史があります。 その上で、昨年には「共創元年」を宣言し、さらに市民と共にみんなでまちを創っていくことを目指して、対話と共創のまちづくりを推進します。 3点目は、人口を維持するための経済・社会・環境の三側面からの戦略の推進です。 将来人口推計を見ると、2030年以降は人口減少に転じると予測され、まちづくりへの様々な影響を抑制するためには、人口減少のスピードをできる限り緩やかにしていくことが望まれます。そのためには、人口が減少し始める前から、人口を維持するための取組を推進する必要があります。 下の表については、人口を維持するための取組例を記載する予定にしており、現在庁内をあげて取組を検討しています。 議題1の説明は以上になります。
坂下会長	ありがとうございました。 このまちづくり戦略は今回加わった項目ですが、もう少しこのまちづくり戦略が出てきた背景についてご説明いただけたらと思います。 というのは、全体的に体系図があって、基本姿勢があって、柱があって展開の方向という総じて抽象的な内容が並ぶ中で、こうしたまちづくり戦略を作られようとしている背景をご説明いただけたらと思います。
事務局	この度、後期戦略計画の素案におきましては、新たにまちづくり戦略という項目を追記させていただいております。 先ほど、事務局より説明させていただきましたが、総合計画と戦略計画の関係で申し上げますと、目指すまちの姿というのは長期総合計画に記載していますが、それを具体的に取組んでいく施策をまとめたものが戦略計画となります。前期戦略計画では、5つの柱をもとに、様々な事業を網羅的に記載し、それぞれの取組を展開していくということが記載されています。 後期戦略計画では、この5年間で、新たに出てきた様々な社会的な課題や将来的な人口減少も踏まえた対応が求められている中で、明石市がどういう目標を持ってまちづくりを具体的に取組んでいくのか、重点的に推進していく視点をより明確にさせていただき、市はもとより市議会や市民、様々なステークホルダーとともに、まちづくりを推進していけたらいいのではないかという思いのもと、まちづくり戦略という項目を新たに設けた次第でございます。そういった意味で、まちづくり戦略が明石市のまちづくりの道しるべというか、方向性をお示しするため記載させていただいたと

発言者	内容
	ころでございます。
坂下会長	ではこの件について皆さんのご意見を伺いたいと思いますが、進行については挙手していただき、指名した委員にご発言をいただきます。 できるだけ多くの方にお話いただきたいと思いますので、発言時間についても、ご配慮いただけたらありがたいです。 すべての委員にどこかで1回は発言していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 それでは、いかがでしょうか。
A委員	今いろいろ説明いただきましたけれども、5つの柱をより具体的な戦略としてまとめたとおっしゃっているけど、全然、具体的じゃなくて抽象的な言葉の羅列みたいな気がします。 もっとやさしいとか、それから笑顔がとか、そんなこといくら言われても具体的にどうしていくのかという姿が見えないんです。これを付け加える意味はないと思います。 対話と共創によるやさしいに「もっと」って何か吹き出しみたいに入っていますが、きちんとした表記するべきではありませんか。タウンミーティングをしているわけではなく、ここは明石市の最高施策を決める場なんだから。 本日の市の出席者も政策部局だけで、すべての政策に関連する一番大事なことを決める会議に出席者が少ない。市長がタウンミーティングなどで直接、まちづくりについて説明したと言っているけど、この会議で説明したことが一度でもありますか。 取り組んだことは前回、20分、30分お話しして次の公務に行かれましたけど、まちづくりに対する思いについて、全然お話されていない。 共創と対話のまちづくりも、タウンミーティングとワークショップを少しやって、20人、30人ぐらいを集めて、それでやったと。ほかの取組も全部同じではないか。 過去2年間でタウンミーティングに一体何人の方が参加されましたか。700人か800人ではないですか。30万人の市民の声を聞いてと思います。 第1回目の時、2年近くかかって、各まち協などにも説明をしてもらって、いろんなことやった末、案が出てきたのに、あまりにも簡単に変わっていくように感じる。この5年間のまちづくりを基礎として、今後、5年間のまちづくりを継続して進めていくのに、簡単に言葉を変えていくのはどうかと思います。これについては反対です。
事務局	今、委員からお話があった点について、このまちづくり戦略を入れさせていただいている意図をもう少し、ご説明する必要があると思います。また、抽象的というお話がありましたが、現状の記載は抽象的だと思います。 これは、今、庁内で、具体的にどういう施策が、人口を今後も維持していくために必要なのかというところについて、検討中でして、そういった意味で、具体性に欠けているかと思います。 まちづくり戦略を記載した意図と申しますのは、さきほど、説明申し上げましたと

発言者	内容
	おり、この計画を見たときに、網羅的にすべての分野に対してしっかり取り組んでいくという計画にはなっているんだけど、今後、明石が、何を重点に取り組んでいくのかということもしっかり示して欲しいという意見が、例えば市議会からもございました。 そういった中で、何を大切に、重点を置いてまちづくりを進めていくのかといったときに、しっかりと本計画の中に記載する必要があるんじゃないかということです。 一方で、後期戦略計画は、長期総合計画と前期戦略計画を受けた、今後のまちづくりを進める戦略計画ということになりますので、長期総合計画を2年間かけて策定した思いや理念、目指すまちの姿は、大切にしつつ、今後、重点的に取り組んでいく施策を3点、記載させていただいております。 この3点についても、これまでの明石のまちづくりの方向性をしっかり踏まえて、こどもを核としたまちづくり、誰にもやさしいまちづくりをしっかりと継承しながらさらに深めていく。 対話と共創のまちづくりにつきましても、単に今、対話と共創ということを出したわけではなく、過去からコミュニティのまちづくりを推進し、今ではまちづくり協議会が各校区において活発に活動している現状もあります。そういった土台があってこそ対話と共創であるということを、しっかりと継承しながら、この先に伝えていくという意味合いで、対話と共創を掲げています。 次に、人口に関しましても、今後、自然減が大きくなって参ります。これは、団塊の世代が後期高齢になってきますと、なかなか止めることは難しい。そういう意味で、いつかこの明石でも人口減少の局面に入ってしまうことは、しっかり受け止めて、今後の対応を考えていかないといけない。そういうところも、今後のまちづくりにおいては大事な部分であると思いますので、そういった点をまとめさせていただいております。
坂下会長	後期戦略計画における重点領域、重点内容が分かるようにというご意図だということですが、ほかの委員の皆様はどうでしょうか。
B 委員	明石市の自治基本条例には、基本方針として、情報の共有、行政への市民参画、協働のまちづくりが定められています。この自治基本条例に沿った議論がされておらず、唐突に対話と共創という言葉が出てきています。 私の言いたいのは、自治基本条例を無視しているのではないかということを感じております。
坂下会長	ほかの委員はいかがでしょうか。 お願いいたします。
C 委員	今までのお話をお聞きしていて、ごもつともだと思って聞いております。 明石市の最上位計画となる戦略計画が、「市民の笑顔あふれる明石市」という聞こえのいい、あいまいな表現でいいのかと思いますし、例えば15ページの3、人口を維持するためのという見出しがありますが、いつまで維持するつもりなのかと思っていま

発言者	内容
	す。 人口が減るのはわかっているのに、なんで維持という表現なのか。人口が減少した時のことを考えて欲しい。私は、まちづくり協議会においても、自治会に支えてもらえるとは思っていません。すでに、自治会は右肩下がりで減っています。いかに住民の声を集めるのかといっても自治会は今後あてにならない。だから、今、自治会を維持するということを誰も考えていません。自治会がなくなっていくその時に、まちづくりを誰がどのように維持していくのか、どのように計画を立てていったらいいのかと考えているのに、市は人口を未だに維持することを考えているというのは、何か期待外れと感じています。
坂下会長	この表現については、いろんな議論がなされているとお聞きしていますが、私も維持と書くのが適切なのかというところは疑義を持っています。ご意見としては現実を踏まえた真摯な展開をしてほしいという意見だと思います。 ありがとうございます。 ほかの皆様はどうでしょうか。 市民にも分かりやすくということで、やさしい言葉を並べられたと思いますが、ほかの皆様はいかがでしょうか。
D委員	こどもを核としたまちづくりということで、今後、こどもたちはどんどん減少していくことが予想されており、時代とともにこどもを取り巻く環境や抱える問題は、多岐にわたり複雑化していくと感じています。 こどもたち自身も、どの年代においてもやはり居場所を探して、なかなか抱えきれない心身の不調も抱えながら、本当に日々必死に生きている子たちが、明石の中にも多くいると感じています。 その中でこどもを核としたまちづくりを掲げていただいているので、家庭だけでこどもたちを見るということはもはや難しく、教育だけでも福祉だけでも、医療だけでも難しいと思います。 それぞれの領域ごとに、たくさんの取組がありますが、私が日頃、こどもたちに関わって感じたことは、横の繋がりが重要であると思います。教育、福祉、医療、こどもたちを支える組織のメンバーが、また民間の組織も踏まえて、まちづくりとして市が率先して、横の繋がりを率先して、引っ張っていただけるような取組があるとこどもたちに関わって仕事をされているメンバーの方々も、解決の糸口が見えやすいのかなと思いました。どうしても、単独の組織だけでは、なかなか糸口が見つけられずに、八方塞がりになってしまうことも多いので、できれば横の連携という形で、市として引っ張っていただけると私たちはありがたいと感じています。
坂下会長	ありがとうございます。 ほかの方ご意見いかがでしょうか。
E委員	確か、審議会の委員をお受けする際にいただいた説明では、長期総合計画はまちづくりの方針としてSDGsを用いるといいますか、目的がSDGsの各目標を達成す

発言者	内容
	るための計画というよりは、明石市のまちづくりにSDGsの考え方をを用いるというお話だったと思います。 そうなったときに、このまちづくり戦略がSDGsとどう関係するのかが分かりにくいと感じています。また、目指すまちの姿とまちづくり戦略とがどういう関係にあるのか、分かりにくく少し混乱しています。まちづくりの大きな方向性として、SDGsなのか、対話と共創なのか、どっちなんだろうと感じました。 また、3の人口を維持するための戦略について、まちづくりの数値目標にも人口を設定しているので、市の方針として人口を維持させていきたいという思いがあるんだろうと思いました。また、さきほど、ご発言もありましたが、人口が維持できなくなる未来がもう見えているので、これからの方針としては、人口減少を迎える前提の方針としたほうがいいのではないかと思います。
坂下会長	含まれているといえは含まれていますが、市民の印象として、いろんな掛け声があって、何に取り組みたいのかははっきり見えてこないというご意見だったと思います。
E 委員	手段としてというところだったら分かるのですが、まちづくり戦略として打ち出す必要があるのか、そこは混乱するかなと思いました。
坂下会長	ありがとうございました。 副会長いかがでしょうか。
井上副会長	対話と共創によると書いてありますが、この共創をコンペティションの競争にして、アイデアを出し合い競争しながら、より良いまちづくりをしていくみたいな形にしていくと、現実的にいろんなアイデアをお持ちの方々がたくさん集まっている明石市ですからいいのではないのでしょうか。また、やさしいという言葉も、現実社会は厳しい状況で、一般的に我々が暮らしていても、そんなにやさしいところがないわけです。 なので、もっとやさしいという言葉もいいかもしれませんが、その裏には、現実社会では、競争があつて、お互いを労り合うような、新しい創造を考えていくみたいな形にしていくと、具体的な構想になるかなと思っております。
坂下会長	ありがとうございます。 ほかの皆様はいかがでしょう。
F 委員	13 ページまでは具体的なデータ等の記載があり、14 ページ以降にこれらの状況を踏まえた上で、今取り組んでいる政策が今後どのように展開していくのか、具体的に記述いただき、ご提示いただければいいのではないかと思います。 私の印象としては、いつも同じ方法な議論をしている気がしてならないんです。抽象的な話が多いので。だから、さきほどご発言がありましたが、こういった現状から将来予測を踏まえた上で、今やっている政策のメリットだったりデメリットだったり具体的提示して、今後進めるべきか或いは改変していくべきかということをこの場で議論できれば、もう少し建設的な議論になるのではないかと思います。
坂下会長	具体的なデータを示しながら議論したいというお話かと思います。 ほかにいかがでしょうか。

発言者	内容
G 委員	後期戦略計画の素案を見ますと、前期の反省に基づいて新しいまちづくり戦略を追加させたというご説明がありましたが、私はこれでいいのではないかと思います。 ただ、具体的に何に取り組んでいくのかという具体性に欠けていて、言葉がきれい過ぎるように感じます。 ただ、具体的な施策の内容は、みどりの基本計画など個別計画があつて、その中で施策の内容を議論するものと理解していますので、後期戦略計画としては、この内容で問題ないと思います。
坂下会長	ありがとうございます。 ほかはいかがでしょうか。
H 委員	初めて参加させていただいて、皆さんの活発な意見を聞かせていただいて、感心しています。 このまちづくり戦略の3つの柱を書こうとするとやはりこういう内容になるのではないかと思います。具体的な内容は、各部門において出てくるので、これはこれでいいと思いました。 少し具体的な数値や方向性が示せると皆さんからの意見も出やすく、市民にも分かりやすいと思います。
坂下会長	ありがとうございます。 ほかはいかがでしょうか。
I 委員	このまちづくり戦略があってもいいと思いますし、無くても計画に大きな支障はないようにも感じます。 先ほどからお話があるように、具体的な取組については、今のところ記載されておらず、これから何か記載されるのであれば、それでいいと思います。現状の記載されている内容がダメというよりも理想的なことが書かれてあるだけという理解です。 ただ、現状としては、世の中そんなにいいことばかりではなく、むしろ厳しいことも書いていいと思いますし、それに向けてどうするのかという具体的な方策が出てくるべきだと思いますので、具体的な取組内容が必要であると思います。
坂下会長	ほかはいかがでしょうか。
J 委員	一般の市民から見ると、明石市は何年か前はSDGs ってすごく言っていたなあとか、インクルーシブって言っていたなあという印象で、それがどう生かされているのか、どの方向に明石市が進もうとしているのか、強い意志が見えてこない、わかりづらいと思っています。 私もいろんなところに関わらせていただいて、いろんな立場の方のご意見をお聞きしますが、例えば、民生委員の委員会有的时候に、ここは改善した方がいいと発言し、会議に来てくださった職員の方にはお伝えするんですが、一向に改善策の提案がない。どうなっているんだろうと思い、迷いながら活動していくのも時間がもったいない。どうせ活動させていただくなら、市民にもっと寄り添ったり、役に立つ時間であったりということを目指して活動したいんですが、行政的にそれがだめだったり、いろいろ

発言者	内容
	ろ制約があったりして勝手な行動はできなかったりするし、また違うところで、お年寄りが集まったところで話を聞くと、こどもにはすごくやさしいが、年寄りに行くところがない。活躍したい気持ちはあるけど、行くところがないというご意見もいたり、不満が溜まっています。お年寄りも今まで頑張ってきて、今の明石があるので、評価じゃないけど、そういった高齢の方の力を生かして、工夫してもらえたらいいと思います。 また、中学校に行かせていただいたら、私たちのこどものときよりも、制服が女子もズボンが選べたりとか、いろいろと自由になってきて、髪型も昔は眉にかかったら先生に怒られるといった時代もありましたが、長髪も認められたりとか自由がある一方で、学校に出てこられないこどもさんがたくさんいたりとか、こども自体の心の問題があったりもするけど、結局は親御さんなど家庭の問題が登下校に関係しているという話もお聞きします。それで地域で見守りを行ったりはするけど、その次、どうするのかという話が下りてこなくて、もやもやしたりしています。 部活動についても、神戸市は民間に委託されて、教師は部活動の指導をやりませんとなったけど、明石市はまだ検討中で、どういうふうになるか、現場の先生も上からの指示がないのでわかりませんという答えが返ってきます。現場では、いろいろ指示待ちの状態がたくさんあるという話を聞くと、明石市がこう進みたい、こうしていきたいという方針がきちんと下まで届くように、強くというか、わかるように説明してくださるとありがたいと思います。やさしくとか笑顔が溢れるというのは、すごくイメージ的にいいんですけどが、具体的にどう展開されていくのか、はっきりと伝えていただけるといいのではないかと思います。そうすれば、私たち市民ももう少し待っておこうとか、協力しないといけないという考えになると思います。
坂下会長	せっかく重点施策を掲げるのであれば、具体的にというご意見です。 ありがとうございます。 ほかにいかがでしょうか。
中野副会長	今までの委員の皆さんがおっしゃった意見がすごくよく理解できるんですけど、結局、まちづくり戦略というのが言葉遊びしているような感があるんです。 17 ページの大きな体系図をご覧ください。 今回、まちづくり戦略というのを挿入されて、対話と共創によるもっとやさしいまち明石の創造というキャッチフレーズがあるんですが、SDGs 未来安心都市・明石との位置づけがよくわからない感じとなっています。 また、対話と共創によるという表現がありますが、下の重点施策においても対話と共創のまちづくりが重複しています。 それと、人口を維持するための経済、社会、環境の三側面も、総合計画にある経済、社会、環境と重複する。 こうした言葉がいろんなところで重複しているので、分かりにくくなっているのではないかと思います。今日参加されている委員の方は、各団体の代表者でいらっしゃる

発言者	内容
	る方が多いので、それをまた各団体の方に説明しなければいけない。しかし、現状であれば、説明できないと思います。 そこで、議会において何を重点取り組むかといったようなご指摘があったということもわかります。市の方針をきちんと説明するのであれば、言葉をまずわかりやすく整理しないとイケないと思います。まちづくり戦略という表現を後期計画の重点施策とすれば分かりやすいんじゃないでしょうか。 これから後期計画の5年間でどのようにまちづくりを展開していこうかという話をしているわけなので、まちづくり戦略というSDGsと少し外れた、また違うような表現を持ってこないで、後期戦略計画の重点施策として、3つの施策を示したらいいと思います。 要するに目指すまちの姿というキャッチフレーズがあるのに、またキャッチフレーズが必要なのか、そこがよくわからない。だから、後期の重点施策として、この3つを挙げて、その上のキャッチフレーズは無くしても理解できるのではないかな。そしたら、議会からご発言があった何を重点にやっていくのかということにも答えられるし、委員の皆さんのご発言にも答えられるし、明石市がどちらに向かっているのかということも示すことができると思います。
坂下会長	明確なご指摘ありがとうございました。 中野副会長が言われたように後期の重点施策とすることは可能だと思うんですが、この3つの言葉についても少しぼんやりしているところがあるので、そこも、重点政策の方向性を明確に示しているか、検討の余地があると思います。
A委員	まちづくりの数値目標が掲げてありますが、これを見ると2030年度のまちづくり目標が住みやすいと思う人の割合100%と総人口が30万人になっています。 住みやすいと思う人の割合100%は、100人が100人みんな住みやすいと思うはずがないと思います。いくら頑張っても100は達成しえないと思います。実績値として、確か91.0%と前回より少し数字が低くなっていると思いますが、90%以上の方が住みやすいと思っている時点でめちゃくちゃ素晴らしいことだと思うので、100%としなくてもいいのではないかなと思っています。 あえて100%を書くということに、本気で達成するつもりなのか、本気であれば、100%を目指すために必要な具体的な施策が必要になると思います。住みやすいと思うというのは、人の感覚に頼るわけで、100人が100人住みやすいと言えるようなことはあり得ないと思っています。行政として、目標値を掲げることは良いが、現実を見るとあまり高い目標を掲げすぎるのもどうかと思います。 それから人口について今年の1月から7月までの人口動態を見たら、あまり増えていないという状況です。今年あるいは来年という悪いけど、人口が減少に転じるのではないかなと思っています。兵庫県内でも明石市だけが増えているわけで、増えているだけでも明石市はめちゃくちゃすごいと思います。 だけど、いつまでも続くかというと、いずれ人口は減少します。自然動態も社会動

発言者	内容
	態もマイナス傾向が続いているので、将来推計人口についてもありえないのではないかと思います。 あと、合計特殊出生率について、11 ページに明石市と国の推計値が記載していますが、この数字にどれだけの真実味があるのか。2025 年の明石市は 1.71 と書いているが、そこまで達していない。国も 1.60 とありますが、1.15 だったと思います。もう少し実態に即した数字を記載すべきで、どこからこの数字を持ってきたんでしょうか。 それと明石市の施政方針を読みましたが、長期総合計画との整合性が取れているのか、ずれているのではないかと思います。端的に言うと、お金の使い方について、例えば、スマートインターチェンジは梅林の保全という言葉はあるが、大久保北部の丘陵地帯の里山に対する配慮が全くない。木を見ても森を見ずというか、もっと大きな視点で見ないと、人口減少を迎えようとしている中、こうした事業が必要かどうかということをもっと考えていただかないと、こうした事業が施政方針にたくさん出てくるので、整合性がないように感じました。やはり、市としてもう少し合理的な方向性を示して欲しいと思います。
事務局	事務局から補足させていただきます。 十分な説明が行き届いておらず、誠に申し訳なかったと思っております。 まず、まちづくりの数値目標についてですが、こちらにつきましては、第6次長期総合計画、あかしSDGs推進計画に記載されているまちづくりの数値目標、これが2030年に住みやすいと思う人の割合100%を目指すということと、人口を30万人維持するということが書かれています。 長期総合計画の最終年度と後期計画の最終年度が同じことから、後期戦略計画のまちづくりの数値目標も総合計画と同じ数値を記載しておるところです。 次に、住みやすいと思う人100%の設定についてでございますが、委員、ご指摘の通り、人それぞれとらえ方や考え方、感じ方が違う中で、100%の方に住みやすいと思っていただけるというのは至難のわざであると思っておりますけれども、行政としてはそういう目標を掲げて、そういった高い目標を掲げるのであれば、具体的にその目標に応じた施策を取り組んでいくべきであると考えております。ですので、具体的な施策につきましては、この後、各施策展開の柱ごとにそれぞれの具体的な施策を記載しますので、そういった施策で足りるのか足りないのかという視点でご意見を頂戴できればと思います。 次に合計特殊出生率のお話ですが、11 ページに記載しておりますのは、将来人口推計を算出する上で、設定している数値となります。 国においても、明石市と同じようにまち・ひと・しごと創生法に基づき、人口ビジョンを示しています。 さきほど、委員よりご紹介いただきましたとおり、国は、2024 年の数値として 1.15 という数値であり、目標の 1.6 には到底及ばない状況です。そこで、国は、現在、こども家庭庁を中心として、少子化対策のラストチャンスとして、取組を進めていると

発言者	内容
	ころです。市としても、こうした国の人口シミュレーションを基に、整合性を図りながら、数値を設定しているところでございます。なお、この数値目標がかなり高いということも事務局として重々承知しております。市も国や県とも連携して、後期戦略計画の中で、しっかりと少子化対策に取り組みたいと思います。
坂下会長	ありがとうございます。 ほかにいかがでしょうか。
F 委員	まちづくり戦略は、総論的な話で、多くの委員の方もその文言自体には特に異議がないところですので、事務局も言われましたけれども、5つの柱以降のところ市がこれからやらんとする諸施策が書かれているわけで、むしろこちらの柱1つずつご説明いただいて、それについて意見をお伝えすることに注力したほうがいいと思います。 特に、議題の1点目には意義なしであれば2点目に移って具体的な話を展開すべきだと思います。
坂下会長	異議なしというわけではなく、皆さん、いろいろとご意見がありましたので、時間を使わせていただきました。 議題1について、今後、事務局で検討が必要と思いますので、各委員のお考えをお聞きしたところ。まだ、ご発言をいただいていないお二人に意見をいただいて、次に移らせていただきます。
K 委員	15 ページのところで人口を維持するための取組例が、ここに書かれるのかなと思いますが、17 ページの体系図を見ますと、まちづくり戦略が各施策展開の柱の上部にあって、そこから具体的な施策が記載されていますが、この人口を維持するための取組（例）をここに記載するのがいいのかどうか、違和感を感じました。
坂下会長	ありがとうございました。
L 委員	全体を通じて感じましたのが、市民との対話というところで、その市民像がすごくふわっとしているなといいますか、もっと市民というのは、いろんな矛盾というか差別があったりする中で生活していると思います。 SDG s には、誰一人取り残さない社会を築くという理念がありますが、誰一人取り残さないということは、裏返して言うと、マジョリティーだけで進めていくと取り残されてしまう人たちが出てくる。それに対する警鐘が誰一人残さないということだと思います。 だからこそ、障害者やジェンダー平等ということで、女性、LGBTQということは、SDG s の中ですごく重要な課題としてテーマになっています。その点から 15 ページの上部に 1975 年にコミュニティ元年、そして 2015 年に協働のまちづくり推進条例というのが書かれています。さらにその後、私自身も委員を務めたから思いがあるのかもしれませんが、まさに SDG s の誰一人取り残さないということに基づいて、明石市ではジェンダー平等条例であるとか、市民参画条例を制定してきたのではないかなと思いますので、ジェンダー平等条例や市民参画条例のことにも触れていただきたいと思います。

発言者	内容
	誰一人取り残さないというのが、13 ページの上の図の円グラフのところに1行だけしか載っていないくて、この計画が、本当にSDGsに基づく計画であるならば、全体を通じて、そうした考えが基調になって表現されていないかならないと思いました。 改めて申し上げますが、市民像がふわっとしているので、もっと、多様性ということを着眼した形で戦略のところに書けないかなと思いました。
坂下会長	ありがとうございます。 先ほどから皆さんからも出ているように、SDGs との関係性を明確にするということが、1つの方針として綺麗に見えるのではないというご意見で、インクルーシブを大切にしてきたことを入れて欲しいというご意見だったと思います。
事務局	いろいろご意見を頂戴しましてありがとうございます。 このまちづくり戦略の部分については、全体の中で、位置づけも含めてわかりにくい、もう少し表現も含めて整理が必要だということは、おっしゃる通りかと思いますので、事務局にて整理させていただいて、次回お示しさせていただきたいと思っております。
坂下会長	では、議題2に移りたいと思います。 議題2は後期戦略計画素案の施策展開の5つの柱と展開の方向性についてです。 事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料5 16 ページをご覧ください。 (4) 施策展開の方針 ① 施策展開の5つの柱 です。 5つの柱は、記載のとおりでございますが、前回骨子案でご確認いただきましたとおり、柱3に若者に対する視点を追加しております。 17 ページは、計画の体系図でございます。 18 ページをご覧ください。 5 施策展開の5つの柱におけるSDGs の主なゴールと展開の方向 です。 主な施策については、実施することがおおむね決まっているものを記載しています。 新規施策につきましては、現在庁内で検討中のため、計画案の段階でお示しする予定です。 それでは、施策展開の柱と展開の方向、主な施策、KPIについて説明します。 施策展開の柱1 豊かな自然と共生し、暮らしの質を高めるため、環境と経済の好循環を促進し、以下の3つの展開の方向で取組を進めてまいります。 展開の方向1 脱炭素社会の実現 では、「ゼロ・カーボンあかし」の取組を進めてまいります。 主な施策としましては、再生可能エネルギー利用の推進や、脱炭素の暮らし・まちづくりの推進などに取り組みます。 19 ページをご覧ください。 展開の方向2 循環型社会の実現 では、共創のもとで「ゼロ・ウェイストあかし」

発言者	内容
	の取組進めてまいります。 主な施策としましては、持続可能なごみ処理体制の確立や、ごみ減量施策の推進などに取り組みます。 展開の方向3 自然環境の保全と活用 では、今年度宣言予定の、(仮称)あかしネイチャーポジティブ宣言に基づき取組を進めてまいります。 主な施策としましては、豊かな海づくりの推進や、みどりの保全・創出と活用などに取り組みます。 20 ページをご覧ください。 K P I です。 展開の方向1 ですが、温室効果ガス排出量のK P I は、実績値が3年以上前の数値となるため、計画のK P I として相応しいかという意見がございました。そのため、この度、代替案として「あかし脱炭素経営パワーアップ制度優良事例表彰者数」を提案させていただきます。このK P I は今年度から市内の脱炭素を推進するために、市として新たに取組む制度になっております。制度の概要につきましては、広報あかしの8月1日号の該当ページを参考資料として、机上配布しております。 K P I として、どちらを設定するのか、一定の方向性をお示しいただきますようお願いいたします。 展開の方向2 ですが、前回の審議会で、家庭系ごみと事業系ごみを分けてK P I を設定すべきとのご意見をいただきましたが、担当課とも協議したところ、ごみについては、家庭系と事業系を分けて目標を設定することは可能ですが、どちらか一方の目標が達成された場合、総量としては目標が達成できていないのに、目標を達成した方のごみ減量の取組が進まなくなることを懸念して、K P I は前期戦略計画のまま、総量である「ごみの排出量」としております。 展開の方向3 ですが、前期戦略計画では、市民一人当たりの公園面積としていましたが、面積の総量が増えているのか減っているのか分かりにくいので、K P I は公園緑地の総面積としました。市民一人当たりの面積は、参考値として掲載する方向で考えています。 21 ページをご覧ください。 (3) 関連する個別計画としては、記載のとおりです。 22 ページをご覧ください。 施策展開の柱2 笑顔あふれる共生社会（インクルーシブ社会）をつくる ため、以下の3つの展開の方向で取組を進めてまいります。 展開の方向1 支え合う地域づくり では、校区まちづくり協議会をはじめとする多様な組織の充実化と交流機会の創出などを進めてまいります。 主な施策としましては、小学校区単位の協働のまちづくりの推進や、共創・協働のパートナーづくりに向けた市民活動団体への支援などに取り組みます。 23 ページをご覧ください。

発言者	内容
	展開の方向2 自分らしく生きることができる社会づくり では、誰もが地域で孤立することなく、住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるよう取組を進めてまいります。 主な施策としましては、インクルーシブ施策の推進や、多文化共生社会に向けた取組の推進などに取り組みます。 24 ページをご覧ください。 展開の方向3 健康・長寿の推進 では、ライフステージに応じた健康意識の啓発や、生活の質の向上につながる取組などを進めてまいります。 主な施策としましては、高齢者の活躍できる場の充実と社会参画の推進や、健康意識の啓発と地域での健康づくりの推進などに取り組みます。 K P I です。 前期戦略計画から引き続き、同じ指標を設定しております。 25 ページをご覧ください。 (3) 関連する個別計画としては、記載のとおりです。 26 ページをご覧ください。 施策展開の柱3 こども・若者の育ちをまちのみんなで支える ために、こども・若者の健やかな育ちを社会全体で支え、以下の3つの展開の方向で取組を進めてまいります。 展開の方向1 安心してこどもを産み、子育てができる環境の整備 では、出産、子育て、教育と切れ目のないきめ細やかな支援を行ってまいります。 主な施策としましては、子育てと仕事の両立のための環境整備や、子育てにかかる無料化施策等の推進などに取り組みます。 27 ページをご覧ください。 展開の方向2 一人ひとりに応じた質の高い教育の推進 では、こどもの学力向上と健やかな心身の育成を図るとともに、I C Tを活用した教育を推進することで一人ひとりにとって最適な学びを実現してまいります。 主な施策としましては、小中学校における少人数学級やインクルーシブ教育の推進、学校教育におけるI C T化の推進などに取り組みます。 展開の方向3 こども・若者の状況に応じた適切な支援 では、こども・若者一人ひとりの意見を尊重して、安心して生活・成長できる環境を整えてまいります。 28 ページをご覧ください。 主な施策としましては、こどもの見守りや、こどもや若者の意見表明の支援などに取り組みます。 K P I です。 前期戦略計画から引き続き、同じ指標を設定しております。 ただし、展開の方向3のK P Iであるこども食堂の実施回数については、今年度策定予定の(仮称)こども・若者計画の検討の中で、こどもの状況に応じた適切な支援

発言者	内容
	を表す、より適切なK P Iがあれば、変更を検討します。 29 ページをご覧ください。 (3) 関連する個別計画としては、記載のとおりです。 30 ページをご覧ください。 施策展開の柱4 安全・安心を支える生活基盤を強化する ために、以下の3つの展開の方向で取組を進めてまいります。 展開の方向1 防災・感染症対策の強化 では、今後発生が予想される南海トラフ地震や自然災害の激甚化などに備えてまいります。 主な施策としましては、地域防災力・災害対応力の向上〔自助・共助の推進〕や、避難所の充実などに取り組みます。 31 ページをご覧ください。 展開の方向2 日常の安全・安心の確保 では、安全・安心な暮らしが営まれるよう、消防や地域医療、地域防犯などの取組を進めてまいります。 主な施策としましては、消防・救急体制の強化や、有機フッ素化合物（P F A S）への対応などに取り組みます。 展開の方向3 誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備 では、ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組むとともに、インフラの安全の確保などに努めてまいります。 主な施策としましては、駅のバリアフリー化や、安全で利便性の高い幹線道路・橋梁の整備などに取り組みます。 32 ページをご覧ください。 K P I です。 前期戦略計画から引き続き、同じ指標を設定しております。 (3) 関連する個別計画としては、記載のとおりです。 34 ページをご覧ください。 施策展開の柱5 まちの魅力を高め、活力と交流を生み出すため、もっと住みたい、住み続けたいまちを目指して、新たなまちの魅力を生み出す取組を進め、以下の3つの展開の方向で取組を進めてまいります。 展開の方向1 地域産業の振興では、地域特性を生かして経済の持続的な成長を図るとともに、中小企業の基盤強化や、若い世代のへ就労支援、働きやすい雇用環境づくりなどに取り組んでまいります。 主な施策としましては、商工業をはじめとする中小企業の振興や、農水産業の振興などに取り組みます。 35 ページをご覧ください。 展開の方向2 豊かな心を育む文化・芸術の推進では、本のまちづくりや、市民の自主的な文化活動を支援し、地域の活力を高めてまいります。 主な施策としましては、本のまちビジョンに基づく取組の推進や、文化・芸術の推

発言者	内容
	進などに取り組みます。 展開の方向3 まちの魅力を生かした賑わいの創出では、地域ごとの特色を生かしたまちづくりを展開し、もっと、住みたい、住み続けたいまちとなるよう地域拠点の整備などを進めてまいります。 36 ページをご覧ください。 主な施策としましては、西明石活性化プロジェクトの推進や、大蔵海岸の魅力向上などに取り組みます。 K P I です。 前期戦略計画から引き続き、同じ指標を設定しております。 37 ページをご覧ください。 (3) 関連する個別計画としては、記載のとおりです 38 ページをご覧ください。 6 計画の推進 です。 (1) 効率的・効果的な行政運営の①を、審議会でのご意見を踏まえ、「市民と共にまちを創る」としております。具体的には、対話と共創や、SDG s の更なる推進を図ってまいります。 主な施策としましては、タウンミーティングの実施や、共創プラットフォームの運営などに取り組みます。 39 ページをご覧ください。 ② 持続可能で自立した行政経営を推進する では、持続可能な公共サービス体制の実現や、自治体D X の更なる推進、健全財政の推進を図ってまいります。 主な施策としましては、市役所新庁舎の整備や、行政手続のオンラインなどによる自治体D X の推進、ふるさと納税の獲得強化などに取り組みます。 40 ページをご覧ください。 K P I です。 新たに、共創プラットフォームへの参画者数と、オンライン化した行政手続き数のK P I を設定しました。 (3) 関連する個別計画としては、記載のとおりです 41 ページをご覧ください。 計画の進行管理は、P D C A サイクルによる進行管理を行います。 説明は以上でございます。
坂下会長	どうもありがとうございました。 前回、皆さんのいろいろご意見を言っていただいて、それを受けて、記載内容を変更されているところもあるかと思います。 まずは柱1の展開の方向1のK P I について、温室効果ガスの排出量をK P I とすると実績値の把握が遅れることから、変更の提案が出ております。この点について、まずは聞きしたいというふうに思います。

発言者	内容
	いかがでしょう。
中野副会長	実績値としての数値の把握が遅れてしまうということで、わかりやすさという点と市が取組をリードしていくという点で代替案でもいいと思います。
坂下会長	ほかにいかがでしょうか。
E 委員	優良事業者の表彰基準はあるのでしょうか。
事務局	あかし脱炭素経営パワーアップ制度は、先月に発足した制度でして、優良事業者への表彰基準はこれから検討していく予定です。
坂下会長	わかりました。 私からの提案ですが、表彰に関する基準が決まり、その内容を確認した上で、K P I として設定することに問題ないかどうか判断させていただきたいと思います。それまでは、温室効果ガスの排出量と優良事業者の表彰者数を併用していきたいと思いますがいかがでしょうか。
事務局	次の審議会において、動きがありましたらご報告させていただきます。
坂下会長	それではこのK P Iについては、方向性が決まったということでお願いいたします。では、施策についてご意見をお願いいたします。
F 委員	我々の議論を反映していただき、良いものとなっていますが、1 点だけ気になったところがあります。 再生エネルギーの利用推進について、明石ではないですが、京都のある市で、太陽光発電に関して、不動産ブローカーが私有地を次々と買い取って行って、ある国宝の建物の周辺一帯が太陽光パネルだらけになる直前にまで行きました。 太陽光パネル自体は過剰な設置をすると自然災害に結びつきやすいですし、あと永久機関ではないので、メンテナンスも必要になってきます。あまり過剰にこういった太陽光発電をけん引すると、財政にもよくないですし、まち一帯が太陽光パネルになりかねないので、むしろ、規制していくべきではないかと思っています。 もう1 点、E V と次世代自動車への転換の促進について、東京都みたいに 100 万円ぐらい補助金を出せば多分買う人はいるんでしょうが、他方バッテリーの開発が予想よりも遅れていて、ちゃんとした距離を走る E V 自動車を作ろうとすると、2 トン車を超えてくる状況にあります。あと、非常に車重が重くなるので道路が傷みやすいという課題もあります。だから、そういったことも含めて E V 自動車への転換というのは、メリット、デメリットをしっかりと考えていったほうがいいと思います。
坂下会長	ありがとうございます。 ほかにいかがですか。
H 委員	再生可能エネルギーのことが取り上げられていますが、やはり今までの取り付けについては、F I T と言いますが、固定価格買取制度というのがあって、太陽光発電をすれば儲かるという経済的な効果が非常に重要視されて、それが目的になってるように思います。 それで先ほど言われた大規模な発電装置も固定価格買取制度のメリットを狙ったも

発言者	内容
	ので、買取期間が終わればあとはメリットがどんどん減るので、建設も減っていると感じております。 ただ、こういう状況をもって太陽光発電、再エネが、すべてマイナスかというところではありません。皆さんのおうちとか、新築の家の屋根というのは太陽光発電には適しておると思いますし、そういうことをお金儲けじゃないっていう方向で考えていただくような方向も重要であると思います。 それとEV自動車ですが、ハイブリッド型の車にすると航続距離も伸びますので、そんな考え方もあるということをおっしゃっていただきました。
坂下会長	ありがとうございます。 ほかにいかがですか。
B 委員	明石市は今、大型の事業が進んでおります。その中で、今後の財政について気になっております。現在進んでいる事業、またこれから進む事業等については、当審議会にお諮りいただき、審議すべきだと思います。 その中で18ページですが、循環型社会の実現の中に、新ごみ処理施設の建設がありますが、この妥当性についても、当審議会でも議論すべきではないかと思います。この810億円というのはランニングコストを含んだ金額となりますが、新庁舎の建設についても、まだ数字どれだけ上がるかもわかりません。明石公園内の旧市立図書館の建物を解体して何か別の建物を建てる計画もあります。そして市民病院の移転計画もあります。公設市場の建て替えの問題もあり、いろんな意味でこれから大きなお金が出ていきます。しかし、こうした状況を市民はあまり知りません。 結局、あとでみんなが知るという形になるということで、審議会の委員にはその数字を明らかにして、その上で、審議会でも議論して、それを提言していくということが一番大切だと思っています。 特に、新ごみ処理施設は、800億を超えるということで、非常に重要な問題と思っています。
坂下会長	今のご意見に対して、事務局からご発言ございますか。
事務局	今後、市の主な施設の中で、大きな建て替えであるとか、新たに設けるものであるとか大きな支出が想定される事業が複数ございます。 一方で、例えば市民病院や卸売市場については、まだ方向性が決まっているわけではありません。財政的な負担も含めて、どういった方策が最適なのか、まさに市民の皆さんにいろんなご意見をいただきながら、検討していかなければいけないという段階でございます。 ですので、担当部局ではいろんな工夫をした上で、財源も含めて検討を進めていく予定としております。 なお、新ごみ処理施設でございますが、これにつきましては、一定、施設の耐用年数が迫っておりまして、ごみ処理は日々のことでございますので、施設がない状態で済ますわけにはいきません。

発言者	内容
	何らかの施設は、必ず必要になってまいります。残念ながら近隣の市町と一緒に建設できないか可能性を探ったこともありますが、なかなかタイミングも合わず、明石市単独で整備せざるをえないという状況でございます。今後、相当、大きな出費となりますが、対応していかなければいけないというところでございます。 そういった状況といいますのは、逐一市民の皆さんにも、お知らせをして、市民の皆様のご理解、ご納得の上で事業を進めていくということは、市としてもしっかり対応していきたいと考えております。
B 委員	私が特に強調したいのは、新ごみ処理施設ですね。これについては本当に慎重に慎重を期して、国からの補助金もあると思いますけれども、たかが知れています。結局、新ごみ処理施設を、進めるがゆえに、市議会の方でも指定ゴミ袋の導入ありきで決定しました。 そして、これから市民に指定ごみ袋制度の説明をされるということですが、順番が逆ではないかと思っています。結局、環境省が、指定ごみ袋制度を導入しなければ補助金を出さない。また早くしないと、助成金が出ないということで、建替えそのものを問題とするということに至らなかったと思います。一旦、立ちどまって、いろんな意見を酌み交わした上で、まずは指定ゴミ袋の議論からスタートして、市民の納得が得られた上で新ごみ処理施設の話を進めていくということが大切だと思います。 噂では、現在2炉ですが、3炉にしたらどうかというような意見も出ています。現在、ごみの排出量は年々減ってきています。 これから人口も減っていく中でごみも減っていくということは明らかです。市民の声を聞いていくというのであれば、慎重に進めてもらいたい。 大事業はこの審議会でも1回揉んでもらい、話し合いをしてもらいたいと願っております。
坂下会長	ほかにいかがですか。
E 委員	前回、ご説明いただいたごみの排出量に関するK P Iについて、事業ごみと家庭ごみとを分けないんですかとお伝えさせていただきました。さきほど、事務局から説明をいただきましたが、もう一度、説明をお願いしたいと思います。分けて表記ができないというお話だったかなと思いますが、市民としては事業系も市民一人当たりと言われても困惑してしまいます。このお話をさせていただいたのは、家を壊して新しい家を建てていく中で大量のゴミを運んでいるトラックを毎日見ているから、提案させてもらったところです。
事務局	ごみの排出量のK P Iに関するご質問でございます。 担当する環境部局とも随分協議はさせていただきました。このごみの排出量というのは、家庭系ごみと事業系ごみの2種類に大きく分けられます。 もちろん、内訳を表記することは、技術的に可能ですが、市としては、家庭系ごみも減らしていきたいし、事業系ごみも減らしていきたい。両方を減らしていったら、ごみの総量を抑えていきたいという思いがあります。片方の目標が達成できたというこ

発言者	内容
	とになると、もう片方のごみ排出はそこまで努力しなくてもいいのではないかという議論、認識を持たれる方がおられるかもしれないということで、担当部局としては懸念をもっております。そうした理由から内訳を表記せず、総量のみを記載したところ です。
E 委員	状況は理解しますが、市民からするとこの 1 人 1 日あたりにごみの排出量にどこま で義務感を抱くかによると思います。
坂下会長	市民からするとわかりにくいということですね。
E 委員	市民としていくら頑張っても、事業系も含まれているのであれば、取組の成果が見 えづらいと思います。 家庭系も事業系も頑張るということならそれでいいのかなとも思いますが、少し気 になったので、質問させていただきました。 あと 1 点、循環型社会の主な施策のうち、資源のリサイクル回収、分別収集がある と思いますが、明石は分別収集がすごく少ないと思っていて、私の実家が名古屋なん ですが、名古屋に帰ったらプラスチックのトレイも回収していて、分別収集が進んで いるなと思ったんですけど、具体的に進んでいる施策なのかどうか教えてもらえれば 嬉しいです。
事務局	ごみの分別状況ですが、明石市はおっしゃる通り比較的分別の数としては少ない状 況です。 今後、分別収集も含めて、検討していく必要があると環境の部局としては認識を持 っておりまして、指定袋制もそうした方策の 1 つと認識しています
坂下会長	ありがとうございます。 ほかにいかがでしょうか。
A 委員	1 つは、K P I のまとめについて、◎、○、△という表現になっており、達成でき ていない項目が△になっています。全体を見るとよく頑張っているなと思いますが、 普通、表記としては、○、×、△であったら達成できていないものがはっきりとわか りますし、自らの取組についての責任を明確にする上でも、○、×、△に変えたらど うかと思います。 もう 1 点は財務のことで、今年の施政方針で、様々な施設のことを全部盛り込んで おられましたが、スマートインターについても梅林に考慮して取り組むとか、卸売市 場も民間の知恵を借りる P F I 方式で進めていくというようなことが入っていました。 財務規律という言葉がさっき出てきましたが、旧図書館跡でも 16 億 6,000 万円くら いの事業費で設計委託を 8,000 万円で発注しています。設計額を見るとかなり高額で、 お金があるならいいんだけど、そう状況ではない。県と協議をして中止という方策を 話して、タダで引き取ってもらって元に戻す。ランニングコストもきちんと考えてな いでしょう。5 年、10 年先までライニングコストはかかる。夢が詰まってワイワイで きる施設は、あった方がいいとは思いますが、いったいいくらのお金が必要となるのか。

発言者	内容
	尼崎市が明石市と同じ方式のごみ処理場をランニングコストも含めて 720 億円で取り組んでいる。これは、浄化槽も一体型となった発電もする施設となっているようですし、奈良市は、人口 30 万人ですが、30 億円くらいで新しい焼却炉を建設するようです。煙突もうまく施設を山のように被せて見えないようにして、発電した電力を用いて周辺のエリアの電力を無料で配るみたいなことをしている。 ごみも燃やさないが基本となってくると思うので、燃やす施設を作るより、燃やさない方向にして、どうしても燃やさないといけないごみのみ燃やす方向にしていくと環境局から説明を受けましたが、2 炉を 3 炉にという話もあって、整合性が取れているのかどうか。何よりすごいお金なので、本当に何がいい方策なのか考えてほしい。市役所についても解体が始まっているから止めようがないけど、今からどれくらいの費用がかかるのかわからない。DX 化とおっしゃっていますけど、中身も全然見えていません。新庁舎に係る費用についても、市民にもう少しきちんと説明してくれないと、子育てのまちから、箱物のまちみたいな話も出ています。 私も高齢者ですが、タクシー券が 2000 円減額されました。コロナや周年事業を終えたということで減額になったということですが、ほかにも高校生の給付型奨学金の定員を 200 人から 150 人に減らしています。そんな状況で、こどものまちとか、笑顔とか出ませんよ。だから、こうした細かいお金を削るよりも、もっと大きなところで金を削るなど、本当に考えて欲しいです。 基金だって 130 億しかなく、ある人はもう明石市が破綻するといっています。 だから、5 年先、10 年先の財政を考えてほしいと思います。明石市は、いいところで、住みやすいし、天候も気候もいいし、ええまちだと思います。本当にいいまちだから、これを続けて欲しいと思いました。
事務局	事務局から少し補足させていただきます。 市としても、委員、ご発言のとおり、健全財政の推進は、市政運営を進めていく上で、非常に重要なテーマであると十分認識いたしております。 そうした観点で、39 ページに持続可能で自立した経営を推進するということに、健全財政の推進という項目を、市政運営を進めていく上での 1 つの方針として記載しております。また、老朽化が進む公共施設については、中長期的な視点を持って、長寿命化や統廃合、管理運営の効率化などを計画的に進め、財政負担の軽減や平準化を行って、将来世代に負担を先送りしないように進めていくという項目を記載させていただいておるところでございます。 先ほど来、そういった大型の財政出動を伴う施設について、財政への影響もあることから、市民の皆さんのご関心が高いことは市としても認識しておるところでございます。 そのような個々の施設につきましては、各所管部局が、事業を計画し、また、議会とも調整、協議を図りながら、必要な手続きを順々にとって進めています。事業実施の方向性が決まっているものについて、市役所や新ごみ処理施設が当たりますが、こ

発言者	内容
	ういった施設は、すでに設計に入ったり、建設に向けた準備を進めているところでございます。 こうした方向性が決まっている事業につきましては、後期戦略計画上、整備という表記をしており、まだ方向性が明確に決まっていないものにつきましては、検討などというような表現をしています。その点も、補足として説明させていただき、また情報がしっかりと市民に提供されていないといったご意見もございましたので、関係部署には、しっかりと我々の方からお伝えをし、情報発信に努めるよう、お話させていただきたいと思います。
坂下会長	ありがとうございました。 ほかにご意見はございますか。
G 委員	少し質問させていただきたいんですが、温室効果ガス排出量の目標値 48%減、これ大変厳しい数字だと思うんですが、具体的にどういう取組を実施するのか、ごみの排出量は、新しく指定ゴミ袋にすると、9%ぐらいごみの量が減るとお聞きしました。 それでいくとごみの排出量は達成できると思いますが、温室効果ガスの排出量をどこでカバーするのか、企業の協力も必要でしょうし、個人住宅に太陽光発電設備をつけるなど、取組が必要だと思います。個人の住宅に設置しようと思うと、結構費用がかかりますし、今は売電も単価が下がっています。こうした事業にも大きな補助が必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	脱炭素に関するK P Iである温室効果ガス排出量についてのご質問でございます。 委員おっしゃる通り、この 48.0%減という目標は、なかなか達成が難しい目標となっています。もちろん、目標の達成には、明石市だけでなく、県や国、また、民間をはじめ、全体で取り組んでいかなければならない課題であると考えています。 とは、申しまして、明石市域において、いかにこの温室効果ガスの排出量を削減していくかということについては、すごく大切な取組であるということで、21 ページに具体的な内容を記載しております。詳細は、関連する個別計画であります地球温暖化対策実行計画という計画があり、脱炭素に向けた多くの事業が掲載されております。その中でも、後期戦略計画では、特に、市が注力して取組を進めようとしている内容を 18 ページの主な施策に記載しております。一例で申し上げますと、さきほどご説明しました、脱炭素経営パワーアップ制度、これはまさに、温室効果ガスの排出量の約 6 割を占める産業界の排出量を減らしていくため、新たに市が創設した事業となります。こういった事業を重点的に推進していきながら、目標を達成できるよう努力してまいります。
坂下会長	ありがとうございます。 ほかにかがでしょうか。
B 委員	もう予定の時間が来ますので、会長にお願いしたいんですが、前期戦略計画の策定時よりも委員数が減ったということは、十分に意見を汲むという事務局のお考えであると思います。そして、みんないろんな意見があると思います。

発言者	内容
	そこで、一度、会長、副会長と3人おられますので、3班に分かれて、ワーキンググループを開催し、集中的に、みんなの意見を吸い取ってもらうという方法をとってはどうかと思いますが、いかがでしょうか。
坂下会長	私も皆さん、個々に意見を集約していく必要があると思いながら、本日、会議を進めておりましたので、実現するようにしたいと思います。 ありがとうございます。 ほかには、いかがでしょうか。
L委員	23 ページですが、自分らしく生きることができる社会づくりということで、前回の審議会での発言を受けて、インクルーシブ施策の推進ということで、合理的配慮の提供やLGBTQ+/SOGIE施策の推進などしっかり書き込んでいただいております。 その上ではありますが、施策の方向を書いた後に関連する個別計画を掲載するという構成は理解しますが、例えば、明石市では、インクルーシブ条例であったり、合理的配慮の提供条例があったりします。 こうした根拠になっている条例を、この計画の中で言及したほうがいいのではないかと思います。明石市では独自に良い条例をたくさん作っておられるので、全部紹介していくと煩雑になるかもわかりませんが、特に展開の方向2の部分、自分らしく生きることができる社会づくりということで、インクルーシブ条例は、全国に誇るべき内容ですので、それに基づいて施策を推進しているということを記載いただければと思います。 もう1点ですが、27 ページの展開方向の2、一人ひとりに応じた質の高い教育の推進とありますが、SDGs でいうと、SDGs のゴール4 は、inclusive&equitable quality education ということで、インクルーシブで、質の高い教育という内容となっているので、インクルーシブで質の高い教育の推進というふうにタイトルを変えた方がいいのではないかと思います。 その上で、具体的な施策について、インクルーシブ教育の推進のところの、1 つ目に計画的な就学支援とありますが、計画的に支援して、どこへ向かっていくのかわかりません。先日、障害者団体連絡協議会では、インクルーシブ教育をテーマにイベントをされました。私も、コーディネーターとして関わらせてもらいましたが、その中で、芦屋市の取組が非常にいい取組として紹介されていました。 芦屋市では、就学前の段階の幼稚園や保育所と、事前に連携して、例えば地域の学校に来られたらこういう合理的配慮、支援ができますよというようなことを事前に情報提供して、就学の決定の参考にしてもらうとか、基本、地域の学校で安心して受け入れますよというようなことを、おっしゃっておられました。そこで、ともに学び育つ教育を実現するための計画的な就学支援というように記載し、どこに向けた取組なのかを示した方がよいと思いました。
坂下会長	ありがとうございます。

発言者	内容
	ほかにいかがでしょうか。
A委員	同じ一人ひとりに応じた質の高い教育の推進で、特に明石市にはインクルーシブ条例という日本のどこにも誇れるような条例があります。ですので、この計画の中でインクルーシブ教育の目標を定めていただきたいと思います。私たちも、今日、明日すぐにできるとは思っていません。5年、10年先を見据えた取組だと思っています。 今、教育委員会も頑張ってくれてはいますが、豊中市や芦屋市の実態を見ると、それぞれの自治体なりにいろんな策を講じて、自分たちにできることをやっています。やはり、そういった教育を知的障害児のいる家族は望んでおります。 ですから、国連の障害者権利条約に、nothing about us without us ということが書いてあり、我々抜きで我々のことを勝手に考えないでくれ、決めないでくれという、これが障害者の声なのですが、やはり、これを総合計画の中で生かしていただきたいというのが本当の願いです。
坂下会長	ありがとうございます。 本日、委員が提出してくださった資料は、会議中、十分ご発言する時間がなかったと思いますので、審議会の中でご意見として取り扱わせていただきます。 それでは、時間が来ましたが、最後にこれだけは言っておきたいということがどうかございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。 それでは活発な議論ありがとうございました。 両副会長からご意見あれば、一言ずつお願いします。
井上副会長	暑い中、ご議論いただきましてありがとうございました。 行政のあり方として、福祉国家という考え方がございまして、北欧とかでは、税金で、社会的な不安をすべて取り去ってしまっ、安心した生活を確保していくという考え方がございます。 そういう国は、税金がものすごく高く、日本の3倍とか4倍ぐらい取られてしまうことになっていて、明石市は限られた財源の中で、先ほど14ページの戦略があったと思うんですけども、限られた資源の中で、こんなにも成果を上げられているということで、これからもそれを推進していくという非常に魅力的な行政経営をしていこうとされていると思いました。引き続き、皆さんと議論をしていきたいと思いますのでよろしく願いいたします。
中野副会長	今日のご議論を伺って一番感じたことは、当初のSDGs未来安心都市明石という方向が少し違ってきているんじゃないかと感じさせるような表現があると思いました。 本当はきちんと一貫した考えに基づいて作成されているものなのでしょうけれども、表現の仕方によって誤解を与えているところがあると思いますので、当初のSDGsという視点で、一貫通貫できるような表現を考えていただきたいと思いますというのが1つと、もう1つは、現実を見てもう少し考えて欲しいというお話がありましたが、明石市では、人口も増加してきた市で子育ても全国で有名になって、まちづくりの目標も

発言者	内容
	達成されてきたと思います。 前回にもご意見があったと思いますが、達成して、その次の段階を計画上、どう表現していくのか、どうしていくのかが、わかりにくいのではないかと思いますので、今後、現実を踏まえた具体的な施策を、わかりやすく表現していただきたいなと思いました。
坂下会長	ありがとうございます。 事務局から何かございますか。
事務局	本日は限られた時間の中でたくさんのご意見を頂戴しありがとうございました。 本日の会議の中でいくつかご指摘、ご意見を頂戴した点につきましては、事務局として改めて計画の内容に反映できるように、検討を進めてまいりたいと考えておるところでございます。 また、限られた時間の中で委員からもワーキンググループといったようなご提案も頂戴したところでございます。また、別の委員からは、意見を書いた文書をご準備いただいて、ご提案もいただきました。 今日は限られた時間のなかで、資料も非常にボリュームも大きく、内容也多岐にわたる内容でしたので、皆さん、十分なお発言がいただけなかったと感じております。ついては、事務局と会長でどういった対応が可能か、ご相談をさせていただきまして、また皆様の方にご案内させていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 また本日の会議録につきましては、皆様に確認のため、送付させていただきたいと思っております。
事務局	少し補足でございます。 いろいろご意見いただきましてありがとうございます。 本日、一番ご意見をいただいたかなというのが、やはりこの人口が今まで増えてきたけれども、今後の明石は、どこかで減少局面になっていくんだろうけれども、その時にどうするんだというところの危機感といいますか、そこが根本にあるがゆえに、いろんなところで、ここは大丈夫か、財政も大丈夫か、施設作って大丈夫かというようなご不安に繋がっているのかなと感じた次第です。 この人口に関して、どのように受け止めて、今後打ち出していくのかというところにつきましては、市役所の中でもいろんな意見が正直ございます。いつまでも増加が続くものではないということは共通の理解ではありますが、今後、人口減少の転換点を迎えようとしている中で、これまで明石のまちがありがたいことにいい雰囲気、市民の皆様にも、良い形のまちになっていっているんじゃないかというように感じていただいているところもあり、そういった雰囲気というのは、できるだけ保っていきたい、もっとより良くしていきたいというふうにも感じております。 その辺りのところが、現実を踏まえるというところの1歩でありながら、どういうふうの良い雰囲気も保ちつつ打ち出していけるのかというところがなかなか難しいと

発言者	内容
	考えております。また、事務局でもそのあたりをよく検討させていただきますので、忌憚のないご意見をいただければありがたいかなと思っております。
坂下会長	ありがとうございます。 それではこれもちまして、2025 年第 2 回あかし S D G s 推進審議会を閉会させていただきます。 本日はどうもありがとうございました。